

## 待ちに待ったマイ足袋が完成

3月14日、中央小学校で「マイ足袋受け渡し式」が行われました。

行田の足袋の歴史を学ぶ授業の一環として昨年9月に市内の小学3年生が絵柄を描いた足袋が、ついに完成。縫製を行った市内足袋業者から出来上がったばかりのマイ足袋を受け取った子供たちは、早速履いて世界に一つしかない足袋の感触を、うれしそうに確かめていました。



## 地産地消の新たなビールが誕生

3月2日、商工センターで特定非営利活動法人行田観光物産会が企画し、誕生した地ビール「麦乃王」の発表・試飲会が開催され、関係者約60人が集まりました。

このビールの主原料となっている二条大麦は県内最大の生産量を誇る本市内で生産されたもの。試飲した関係者からは「香りが良い」「おいしい」などととても好評でした。このビールは既に市内一部の飲食店や酒屋で取り扱いが始まっており、地産地消の新たな味として広がり期待されます。

## いつまでも地域で暮らすために

3月8日、教育文化センターみらいで行田市在宅医療・介護連携推進協議会による第5回在宅医療・介護連携推進に係る多職種合同意見交換会「地域包括ケアシステム～医療職・介護職が力を合わせる在宅ケア～」が開催されました。

この催しには市内外から医療・介護に携わる専門職など約400人の関係者が集まりました。千葉県松戸市で在宅医療を積極的に行っている医師の川越正平さんが、医療に「生活の視点」を取り戻す在宅医療や介護との連携について講演。参加者にとって、住み慣れた地域での生活を支えていく方策を共に考える良い機会となったようです。



## 美しいハーモニーを響かせて

3月3日、第22回行田市民館ふれあいコーラス発表会が「みらい」文化ホールで開催されました。

発表会には、各公民館で活動しているコーラスグループ16団体が参加。グループでおそろいの衣装を身に付け舞台上上がった参加者は、「いつでも夢を」「みかんの花咲く丘」などさまざまな曲を歌い上げ、美しいハーモニーをホールいっぱいに響かせました。心の込もった歌声に来場者からは拍手が送られていました。

## 『陸王』の著者 池井戸潤さんに感謝状を贈呈

—昨年の小説『陸王』(集英社)の発売、そして、昨年はTBSテレビ日曜劇場においてドラマ化されたこともあり、行田市は今『陸王のまち』として全国から脚光を浴びています。

3月8日、これまでの感謝の気持ちを伝えようと、『陸王』の生みの親である作家の池井戸潤さんに感謝状を贈呈しました。また、行田だけでなく埼玉を大いに盛り上げていただいたとして、上田知事からお預かりした感謝のメッセージもあわせてお渡しいたしました。池井戸さんからは「これほど大勢の方に愛され、作者としても大変うれしい。これからもぜひ『陸王』をまちづくりに活かしてください」との言葉をいただきました。



## 弾道ミサイル発射事案を 想定した訓練を実施

3月16日、市役所で市職員を対象に、弾道ミサイル発射事案を想定した訓練を実施しました。

危機管理体制の強化を目的としたこの訓練では、午前6時30分、120人の管理職員を対象に、緊急時の参集体制を確認するため非常参集訓練を実施。また、午前9時からは、行田市国民保護対策本部設置後の情報収集・伝達体制などの初動体制を図上訓練により確認しました。



## プロから学ぶ男の料理

2月24日、VIVAぎょうだ調理室で「男の料理塾」が開催され、30歳代から70歳代の男性25人が参加しました。

講師を務めた割烹主従魚けん料理長の島村州永さんの指導の下、参加者は刺身や鯖の煮付け作りに挑戦。プロが教える魚の知識や包丁さばきに感心しながら料理を完成させ、最後はみんなでテーブルを囲みました。



## 和菓子職人の 巧みな手さばきに興味津々

2月25日、商工センターで「まちの賑わい“感謝祭”音楽と菓子の祭典」が開催されました。

クラリネット四重奏やキッズダンスなどのステージイベントの他、行田市菓子商工業組合に加盟している店舗による洋菓子・和菓子の販売やココアと甘酒の無料配布が行われました。また、和菓子づくりの実演コーナーも設けられ、来場者は目の前で繰り広げられる和菓子職人の巧みな手さばきに興味深そうに見入っていました。